

学位論文要旨

氏名 別惣 淳二

題目 教育実習カリキュラムによる資質能力形成の評価に関する研究—兵庫教育大学の実地教育科目を事例にして—

本研究では、教育現場での多様な実習形態・内容を取り入れて教育実習改革に取り組み、1~4年次の実地教育科目の体系化を進めてきた兵庫教育大学の教育実習カリキュラムを取りあげ、第1部では主免教育実習の事前指導として2年次に社会教育施設での観察参加実習を経験させることが教員としての資質能力形成にどのような効果をもたらすのか、また、こうした自然体験活動の指導において教員にどのような資質能力が求められ、養成段階でその資質能力を身につけさせるためにどのような教育実習カリキュラムが必要になるのかを明らかにすること、第2部では教員養成の質保証の観点から、養成段階で身につけるべき教員として最小限必要な資質能力を教員養成スタンダードとして同定し、1~4年次の実地教育科目においてどのような資質能力を身につけさせるべきなのかを明確にした上で、実習経験を通して実習生がその資質能力をどの程度身にしているのかを評価することによって、実地教育科目の成果と課題を明らかにすることを目的とした。

第1に、2年次生に社会教育施設での観察参加実習（実地教育Ⅱ）を経験させる成果として、児童・生徒理解力を身につけさせることによって、豊かで個性的な子ども観の形成や教職観の発展を生起させていること、社会教育への関心を広げ、青少年活動に積極的に参加しようとする教員の育成に寄与する取り組みになっていること、実習生の教師としての資質能力の共通基盤の部分を充実させることに貢献していることを明らかにした。次に、実地教育Ⅱの経験が3年次（実地教育Ⅲ）や4年次（実地教育Ⅳ）の主免教育実習において意義があったと答えた実習生は、教職志望度、教職適性度、教師として必要とされる資質能力の自信度が有意に高く、肯定的で豊かな教職観と子ども観を有していた。そして、実地教育Ⅱの意義を認めた実習生とそうでない実習生とでは、実地教育Ⅲと実地教育Ⅳの教育的意義観において顕著な意識の差が見られた。さらに、実地教育Ⅱ修了後も指導補助ボランティアを経験した4年次の教職志望学生は、「教職に就く」という条件付きで、社会教育の場で子どもに野外活動等を指導していきたいという意識を持っていることが明らかになった。

第2に、兵庫県下の「自然学校」受入施設の青少年教育指導者を対象に質問紙調査を

行った結果、約8割の者は自然体験活動の指導において教師に資質能力が必要であると答えた。また、9割の者は、教職志望学生が在学中に自然体験や野外活動等を経験する必要があると回答した。そして、教職志望学生が在学中に子どもの自然体験活動プログラムに指導補助者として参加する経験を持つことは「指導のための資質能力を身につける」「子ども理解、子どもとの関わり方を身につける」などの効果が期待されることを見出した。また、教員養成系学部・大学院の授業に自然体験活動や指導法の科目を設置することについて、6割強の者が「望む」と答え、「体験活動を授業とする」という回答が最も多かった。さらに、自然体験活動の指導において教師にどのような資質能力が求められるのかについて尋ね、因子分析を施した結果、7因子が抽出でき、それらの資質能力は1学期よりも2学期に自然体験活動を実施した子どもの活動成果と正の対応関係にあることを明らかにした。

第3に、小学校の新任教師に就く際に必要な実践的資質能力を同定するために2段階の質問紙調査を実施し、分析した結果、10領域57項目からなる小学校教員養成スタンダードを策定した。小学校教員養成スタンダードに基づいて、兵庫教育大学の実地教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの実習到達規準を明確にするために、各実地教育科目の実習指導教諭を対象に質問紙調査を行い、5件法で平均値が3.50以上の項目は実習到達規準として妥当であると判断できた。さらに、実地教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの実習到達規準に基づき、各実地教育科目における資質能力形成について実習生による自己評価を行い、実地教育科目での経験から学んだ成果と学修課題を明らかにすると共に、各実地教育科目の改善課題を提示した。

第4に、大学4年間でどのような実践的資質能力をもった幼稚園教員を養成するのかを同定するために、2段階での全国規模の質問紙調査を実施し、分析した結果、8領域51項目からなる幼稚園教員養成スタンダードを策定した。幼稚園教員養成スタンダードに基づいて1～4年次の幼稚園教育実習科目の実習到達規準を明確にするために、実地教育Ⅰ・Ⅲ・Ⅳの実習指導教諭を対象に質問紙調査を行い、5件法で平均値が3.50以上であり、かつ「5.」と「4.」の回答割合が50%以上の項目は実習到達規準として妥当であると判断できた。さらに、実地教育Ⅰ・Ⅲ・Ⅳの実習到達規準に基づいて、各実地教育科目における資質能力形成について実習生による自己評価を行い、実地教育科目での経験から学んだ成果と学修課題を明らかにすると共に、各実地教育科目の改善課題を提示した。